

発行：はつらつ編集局  
 発行日：平成 26 年 7 月 1 日  
 発行人：吉田 秀明  
 編集人：はつらつ編集委員  
 お問い合わせ：0135-23-3126



## 研修医リレーコラム62 「たかがダニ、されどダニ」

こんにちは。6月のひと月間余市病院でお世話になりました、市立小樽病院研修医2年目の佐々木 壘です。このひと月は、小樽では経験できない症例ばかりで戸惑うことも多かったですが、非常に勉強になり充実した日々を過ごせました。これからも余市、ならびに近隣町村の医療の充実を願うばかりです。

今回のコラムは、僕がこの病院で経験した中で数件出会いました、「マダニ」に関してお話したいと思います。

### <マダニについて>

「ダニ」というと、皆さんはお家の衣類や寝具に発生する小さなダニを想像すると思いますが、マダニはそれとは種類が異なり、固い皮に覆われた3~4mm大の虫で、主に林や雑草地に生息しています。

マダニは主に、ネズミなどの野生動物の皮膚に咬みついて吸血することで生活環が成り立っていますが、当然ヒトが草むらなどマダニの生息地に立ち入れば、咬みついて吸血します。春から秋(3月から11月)にかけて活動が活発になります。

### <マダニに咬まれないようには？>

マダニは主に草むらや森林にいます。それらの場所へ入るときは、長袖、長ズボン、手袋、長靴などを着用し、肌の露出は避けるようにしましょう。そして帰宅後は体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。

### <マダニに咬まれたら>

マダニ類の多くは、咬みついたときに皮膚にしっかりと口を突き刺し、長時間(数日~10日間)吸血します。自分で無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚の中に残り化膿することがあるので、咬みついたマダニに気づいたときには、病院など医療機関で処置してもらいましょう。マダニに咬まれた後も、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱などの症状が現れた場合には医療機関で診察を受けてください。

### <マダニが媒介する感染症>

・日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアという細菌を持っているマダニに咬まれることで感染します(全ての個体が病原体を持っているわけではありません)。咬まれてから2~8日後に高熱・発疹が出現し、重症の場合は死に至ることもあります。発症したときには適切な抗菌剤治療が必要です。

・SFTS(Sever Fever with Thrombocytopenia Syndrome; 重症熱性血小板減少症候群)

2011年に初めて特定された新しいウイルス、SFTS ウイルスを持っているマダニに咬まれることで感染します(全ての個体が病原体を持っているわけではありません)。感染すると、6日から2週間後に発熱、倦怠感、消化器症状(下痢・嘔吐など)などが現れます。このウイルスに対する治療法はなく、対症療法が中心となります。

### <最後に>

上記以外にも、マダニによって何らかの症状を起こす病原体は様々あります。

「たかがダニ、されどダニ」ということで、まずは咬まれないように予防することが第一です。もし咬まれた際にも、油断せずすぐに病院を受診するようにしてください。早期診断・早期治療がとても大切です。

市立小樽病院研修医 佐々木 壘



「北海ソーラン祭り」



救急件数 (6月) 外来受診245件 うち入院33件 救急車来院59件 うち入院16件